

高木保育園閉園特集

高木保育園のあゆみ

- 昭和53年3月 児童福祉施設高木保育園が設置。
- 4月 開園。園児45人。職員7人。
初代園長に宮崎シズヤ氏就任。
- 昭和62年3月 アスレチック工事
- 10月 「高木幼年消防クラブ」結成
- 平成4年6月 「高木交通安全クラブ」が郡交通安全研修会にて発表
- 11年1月 乳児保育促進事業に伴う工事開始（調乳用コンピュニット、アコーディオンカーテンなど）
- 10月 少子化対策臨時特別交付金事業に伴う工事開始（日光浴場、手足洗い場など）
- 12年7月 熊日緑のリボン賞受賞
- 20年7月 第1回親子ふれあいまつりを開催
- 22年9月 敬老参観を初めて開催
- 25年3月 耐震工事
- 28年4月 熊本地震により被災。園舎が使用できなくなり、旧恐竜博物館へ移転。
- 30年4月 高木保育園民営化開始



▲高木保育園にお別れする園児たち



▲昭和53年度に撮影された第1回卒園記念写真



▲たくさんの思い出が蘇ってくる▶



高木保育園のうた

作詞 中山 千鶴子
作曲 出田 敬三

一 きょうも げんきに おはようさん
おでかけ おしたく できました
やさしい せんせい まっている
みんなの みんなの 高木保育園

二 きょうは おはなし なんだろう
ぶらんこ すんだら すべりだい
たのしい おうたに すなあそび
みんなの みんなの 高木保育園

三 きょうの おあそび すみました
ゆびきり げんまん またあした
みんなの ほっぺは まっかっか
みんなの みんなの 高木保育園

高木保育園

40年間ありがとう



御船町立高木保育園閉園

春の訪れを感じる暖かい日となった3月28日、高木保育園（野口壮一園長）の閉園式が行われ、卒園児や保護者、関係者約200人が別れを惜しみました。

当園は、昭和53年4月に開園し、以来40年間にわたる長い歴史と伝統を築き、高木地区と地域とのつながりを大切にしてきました。しかし、平成28年4月の熊本地震により甚大な被害を受けたことで、旧恐竜博物館の仮園舎への移転を余儀なくされました。その後の再建の検討の末、民営化することになり、閉園に至りました。

野口園長は、「震災後の厳しい環境の中で多くのご支援を受けながら、日々の保育に工夫をこらしてきました。当園は、高木地域になくてはならない保育園として、保護者や地域の皆様のご理解と温かいご支援があったからこそだと思っています。4月から社会福祉法人南苑会により、園名が引き継がれた新しい高木保育園が誕生します。これまで築きあげた地域との連携を宝に、心豊かな子どもたちの育成を目指し、継承した歴史を刻んでください」と別れのあいさつ。その後、40年間のふりかえる思い出のスライド写真を紹介。な

つかしいまなざしで見ている人や涙ぐむ姿がありました。

園旗返納では、藤木正幸町長へゆつくり手渡されました。

閉園式後のセレモニーでは、満開の桜の木に囲まれた園庭で、園児たちが元気な声で「にじ」を歌いました。その後ピアノソートの菅野大地さんの演奏に合わせて、高木保育園の國友淳子先生が園舎に向けて魂の熱唱。最後は、「さよならばくたのほいくえん」をみんなで歌い、園児らが大空へと風船を飛ばし、高木保育園の40年の歴史に別れを告げました。



仮園舎での 高木保育園卒園式 震災に負けない 素敵な時間を過ごしました

